

イギリス保育發達史(二)

白根孝之

昭和九年十一月號の本誌に「英國に於ける幼児保育の發達」を題する短文を公けにして、イギリスに於ける保育運動の沿革を極めて簡略に紹介したが、不備や脱落の點が少からず、何時か機會を得たら補正したい考へてゐたところ、最近手に入れた「ハドー委員會報告書」の第一章にこの部に關する十分信頼するに足りる材料が提供されてゐるので、此によりて宿望を實現させて頂きたいと思ふ。

世界大戰は歐米各國の教育に對して改革への大きな機會となつたが、イギリスに於いては、一九一六年十二月「フィツシャーレー」が文部大臣に就任して以來、「大戰」によつて明かにされたイギリス教育の缺陷の補綴修正を目的として「教育の一大改革」に着手したが、一九一八年「兒童憲章」と呼ばれる有名な「フィツシャーレー條令」を發して教育の全面的改革に一石を投じた。この條令は極めて廣範圍にわたる改革を意圖したもので、イギリス教育史上重大なる意義をもつものであるが、諸種の事情特に經濟上の理由から充分に實現出來なかつた。けれどもその影響は刺戟によりて爾後の英國教育界の改革運動はのみに活氣を呈し、相次いで多くの文獻が公けにされ、各種の改革委員會が設けられるにいたつた。その最も大きな結實がハドー(Sir Henry Hadow)を委員長とする「文部省諮詢委員會」The Consultative Committee on Educationで、一九二四年二月に任命されたものである。委員會は諸外國並に英國に於ける過去及び現在の調査を基礎として先づ一九一六年「青年教育に關する報告書」をなし、一九三一年には「初等教育に關する報告書」を纏め上げ、同年から引かれて「保育學校

及び幼兒學級に於ける子供の訓練と教育とに關する考察をなし、その將來に關する意見を報告する任務をもつて活動を續け、一九三三年の報告が文部省から纏められて公けにされた。「幼兒・保育學校に關する諮詢委員會の報告」Report of the Consultative Committee on Infant and Nursery Schoolsがそれである。その第一章は「イングランド及びウエールズに於ける初等教育の明確な一部としての幼兒教育の第十九世紀初期以降の概略史」であり、イギリスに於ける保育史に關しては現在最も信すべき報告の言ふところが出來よう。

一 八七〇年までの概況

(一) 一八一〇年に至る西歐の保育思想

イギリスに於いて組織立つた教育としての保育が始まつたのは極めて新しいことだ。一八一〇年に次第に發達して來たものである。勿論第十七・十八世紀に於ける偉大な教育思想家はいつもも幼兒保育の重要なことを認めてはゐた。一九一九年に書かれたアンドレアの「クリスティアノボリス」や一六三三年のコメニュースの有名な「幼兒學校」等は、いつもも幼兒の訓育を論じたものであり、その後もライブニッツ、リチャード・エッヂワース、マリア・エッヂワース、ベスタローチ、フレーベル等の有名な思想家が之に觸れてはゐるが、彼等は皆六歳迄にいたる保育はすべて家庭の仕事であると考へてゐたのである。ヨーロッパに於ける教育家で、「幼兒の本性に基盤を置き、家庭と乳母の養育を補正する」幼兒保育機關を立てるのを最初に考へたのはフレーベル(1782-1852)であった。

保育思想を實際に移した最初のものとして、西歐に於いて三つの試みが記録に殘されてゐる。その各々の創設者は相互に知らずしてこの試みをなしたものと思へる。年代順に言へば、七六年アルサスのワルドバッシュに建てられたオベル

ランのもの、一八一六年スコットランドのニューラナークの一小工業都市に建られたもの、第二は一八三七年にテューリンゲンの森林のアランケンブルクに設けられたものがこれである。イギリスに於ける保育學校は主としてこの後の二者から發達したものである。

世界最初の保育機關たるワルドバッシャーのものは、アルサスのこの僻遠の教會で五十六年間も牧師をつゝめてゐたオベルラン T. F. Oberlin (1740-1826) が、サラ・バンジエ・ルイース・シエブレンシ、ふ二人の協力者を得て、一七六九年にこの地に設立したもので、裁縫や編物を習ふ年長の子供の中に交つて幼児達を監督者ガーディアンの下で遊ばせたのであつた。書き方や自然觀察に關する事柄が掛圖によつて指導され、手工や圖畫も試みられた。天氣の良い日には戸外に出て觀察や實物教授が行はれた。これが大體最初の幼稚園であるが、フランス、スイス、ドイツの各地にこのオベルランの幼兒學校を範としたものがその後次第に出来るやうになつた。例へば一八〇一年にバウリーネ皇妃がデトモルトに建てたバウリーネ園 Paulinenanstalt の如きはその一つで、これは現在にいたる迄存續してゐるといふことである。

(2) 十九世紀初に於ける英國の初等教育

今日知られてゐる限りでは、イギリスで幼兒の保育のために特に造られた機關は、一八一六年ロバート・オーエン Robert Owen (1771-1858) によりてスコットランドのニューラナーク New Lanark に於けるオーエンの新しい學校の一部セクションとして設けられたものである。これが即ちイギリスに於ける幼兒保育の黎明であるが、その説明に入るに先立つて當時——第十九世紀の始めに於ける初等教育の有様に就いて述べておくのが便利である。

當時の小學校教育機關は營利の上に立つ私立學校、刀自學校、教區學校、慈善學校、日曜學校、及びベル、ランカスター、一兩氏の努力によつて始められ生徒監の下に稍々組織立つた教育を施したモニトリアル・スクール等で、いづれも個人の慈

善的、社會事業的動機に發したものか、若しくは教會團體の手で營まれたものが大多數であつた。このうち Bell・スクールには六歳以下の幼兒を若干收容するものもあつたが、他は殆んど七歳以上の子供に限られてゐた。一八〇一年に「大英學校協會」なるものが創始され、一八二一年には「貧民兒童の爲めの教育促進協會」が生れ、國家として若しくは社會としての初等教育に對する努力が始めて實を結ぶにいたつたが、兩協會はいづれも Dr. Andrew Bell 及びランカスター Joseph Lancaster 二氏のミニトリアル・スクールを支持し後援した。この學校も元來は六歳以上の子供に宗教的陶冶ミミRの術ミ、女兒には若干の裁縫技能を授けるのを目的としたもので、「學校協會」の法規の一項にも六歳以下の子供は學校に入れるべからずとされてゐた程であつた。併し實際に於いては六歳以下の子供もミニトリアル・スクールに收容されてゐた。それは一に地方の情況ミ學校の大きさによつた。然もその數は漸次大きくなつて、一八五〇年の頃にはイギリスの之等「小學校」兒童の四〇%は八歳以下の子供で占められてゐた。つまり初等教育の機能が漸次低下する現象を呈した。一八五二年に彼の有名なマシュー・アーノルド Mathew Arnold の報告した所によるに、「昨年中私の訪問した學校に就いて考へるに、幼稚學校が不足してゐるとの感が特に強かつた。七歳以下の子供が澤山押しかけて騒いでゐるために折角のよい學校の教育機能が減殺されてゐる」と述べられてゐる。

乃自學校ミいふのは年寄つた婦人や不具の女が自宅に近所の子供を集めて保育ミ教育ミにあたつたものであるが、當時の社會では大きな教育的勢力であつて、一八一九年の統計によれば全國で三、一〇二もあり、收容兒の度は五三、六工四人に上つてゐる。之は最初から幼兒を收容し、主として二、三歳から七歳迄にわたつてゐたもので、實質上幼稚園保育の前身をなしてゐた。前に言つたやうに之等の經營者は學問的には教養の低い婦人もあつて、その設備も不衛生的な狹小なもののが多かつたが、中には地方の篤志家や教會等の補助によつてかなり立派な設備により見るべき成績を擧げてゐたもの

もあつた。

(3) ロバート・オーエン

イギリスに於ける最初の幼兒學校は一八・六年にロバート・オーエンがスコットランドのニュー・ラナークに建てたものであつた。これはオーエンが議會への報告に於いて言つてゐるやうに「工業都市の下層階級の子供のための教育」を目的としたもので、兩親が綿紡ぎ工場で働いてゐる間に二歳以上の子供を受取つてその世話を見てやるものであつた。この學校は上下二級に分れてゐて、先づ三歳の子供は準備級に入れて良い習慣を馴致し、然る後に上級に入れて讀書・算の術・女兒の裁縫技術を授けるものであつた。幼兒學校の最初のものとして注意すべきは、力めて戸外の遊戯と保育が重んぜられたこゝである。オーエンの自傳に「天氣と子供の力とが許す限り子供は戸外で遊ぶべきである。併し眠がる時には満足するだけ睡らせてやらねばならない」。さある。オーエンの子供のR.D.オーエンも「ニュー・ラナークに於ける幼兒學校の情況」中で次のやうに書いてゐる。「三十五歳までの幼兒級は一日に二時間半だけ學校の建物の中に居り、残りの時間は學校の前に設けられた運動場で若い保姆の監督の下に極めて自由に遊ばせられ、之によつて健全にして確乎たる習慣を得させられた」。一八一八年になつてホイッグ黨と急進黨内の有識者がこのオーエンの幼兒學校の支持を申合はせたが、その中にはジエームス・ミル、ブルーガム、ランスドーン卿の如き人もあつた。かくて數ヶ所に之に倣つた幼兒學校が新設された。そのうち最も有名なのはニューラナーカから聘されたブッチャナンを指導者とするウェストミンスターのそれである。

(4) サミニュエル・ヴィルダースピン

第一の幼兒學校は一八一〇年ジョセフ・ヴィルソンによつて、イングランドのスピッタルフィールドに開かれた。ヴィルソンが一切を託したウイルダースピン Samuel Wilderspin(1792-1866)は前記ブッチャナンの友人でウェストミンスター

の幼兒學校のあつて保育の實際を研究した人であり、彼も亦健康・體育等の目的の他、德育・訓練上の目的で盛んに内外の運動遊戯を重んじた。一八二四年ロンドンにペスターの友人グリーブス J. P. Greaves を會長にして「幼兒學校協會」なるものが建てられた。それは永續はしなかつたが、ウイルダースピングはよく之を提携して斯業の發達に努力した。彼は宣傳のために諸國をしばしく旅行した他、自ら數冊の幼兒保育に關する著作を公けにしである。彼の教育觀は未だ極めて曖昧な不完全なもので、しばしく教育と教授との混同なども見られるが、幼兒を樂しませることが中心だむ。學校の設備を明るい愉快なものにするといふ點、體育の重視、圖繪や實物による直觀教授、吟味・表現・比較の自由活動等の點に彼のすぐれた着想を伺ふことが出来る。併し彼に做つて出來た多くの幼兒學校では徒らに機械的な方法だけが移入された傾向がある。さもあれ彼も一功勞者に算へらるべきである。

(5) ダヴィッド・ストー

幼兒學校の今一人の先覺者はストー David Stow (1793-1864) である。彼はスピタルフィールドのウイルダースピングの幼兒學校を訪れてグラスゴーに一八二七年に幼兒學校協會を建てたが、模範校の意味で翌年自らドライゲートに一校を創設した。彼のやり方はウイルダースピングのそれを模したもので、上下の二級に分ち、校舎の設備、體育・訓育の重要視、實物・直觀・表現による教授等の點でこれに似た試みを行つた。その次第は「グラスゴー模範學校」(一八三六年)なる彼の著作に明らかである。その組織の方法と見解とに就いて一八二五年グラスゴー・ヘラルド誌に掲げられた左の記事は如實に傳ぐである。「運動場では子供の健康と良習慣といふことが第一に注意されてゐる。廣い教室は換氣に注意し、之を取巻く繪や實物や模型は子供の理解を助ける爲めのものである。子供達は清潔・規律・柔順・敬虔・親切等の習慣に向かひて訓練される。椅子に坐つてゐるのは僅か十五分もつかない。一切が樂しさうに動いてゐる。教示は繪と實物とで

なされる。一日の三分の二は運動場や戸外で唱歌・跳躍・行進・遊戯・組木・観察等で過される」。

エドワードは自らも言ふ如く教育上の天才でもなく又その施設の跡に獨創的なものも見當らないが、オーヴィングの思想を廣く傳播し實現するに力があつた。又彼はグラスゴーの教會師範學校で小學校や幼兒學校の教師の養成に盡力した功は大きい。彼は父の宗教教育上の功によつてスコットランド教會の支持を受けることが出来た。

エドワード・ルダリスゼンこの努力によつてイングランド及びスコットランドの幼兒學校は非常な勢で増加した。それは元來の目的がさうであつたやうに、貧民勞働階級の三乃至六歳迄の子供を收容して之を家庭の貧困と不道徳、街上的危険から護り、體育・訓育を主としたものではあつたが、又知識の教授も行はれ、特に是等の不幸な子供に光りと喜びとを與へる點に於いて大きな教化力となるにいたつた。

(6) メトヨー・兄妹

この頃チャーレズ・メトヨー Charles Mayo (1792-1864) エリザベス・メトヨー (1793-1865) の兄妹が出て、幼兒學校とその保母の養成を目的とする「内外幼兒學校協會」なるものを設立した。一八三六年のことである。兄のメトヨーは彼のペストローツに親しみ、一八一九年から二三年までイヴードンに於いて共に生活した経験をもつ。彼の創設した協會は幼兒學校及び小學校の教師の養成を主たる目的としたものであるが、その主旨は幼兒の教育といふことは相當の學識と手腕とにして忍耐克己心をもつた教育者でなくては出來ないといふにあつた。後ち協會は幼兒學校の組織を統一する目的で先づ模範學校を建てたが、文部省の督學官タッソネルは一八四七年この學校を視察して次のやうに報告してゐる。「教授の普通のやうなは本にもる動物にじろその他の事物にしる、先づ子供にその繪なり型などを見せて、然る後に之を教材にすらおぼはるやうである。最幼少の子供への教育の主眼とする所は彼等の觀察眼の養成これが主點はある、先づ彼等に事物の

明確な觀念を與へ、次に之を表現させるといふのが教授の原理とされてゐた。例へば色彩に就いて教へる場合には、先づ一群の色の書かれた紙を示し、次に各種の色のカードの中から之に相應するのを選り出させて、名稱を教へ、次の時間にいろいろの事物にそれべくの色を配合させるといふやうなやり方が行はれてゐた。

メーヨーの内外教育協會の努力としては初等教育を二歳以下の幼兒の級、三乃至六歳迄の級、六乃至九・十歳迄のもの三級に分つ區分を普及させたことであつた。

(7) 第十九世紀前半に於ける幼兒保育の特色

以上述べた先覺者的の幼兒教育者の努力に關する敍述から、當時に於ける保育運動は一般初等教育運動が擴まつた時期に之と伴つて形をとつて來たといふ事が知られる。即ち初等教育運動の始期からその内部に於いて六歳を堿とする上下級の教育に分れようとする傾向が存したのである。之が目につく第一の特色である。

第一に十九世紀の初に於ける産業革命の進展は次第に少年の勞働に對する要求を高めて來たが、刀自學校、教區學校その他の機關並に「國民教育協會」その他の手が進められた教育運動はこの要求に對應して、學校教育をなるべく早く始め、少くとも十歳迄には終らせようとする傾向が強くなつて來た。

第三に當時の時勢は教育と保育とを結合した學校を要求した。即ち上に述べた如き諸機關は明瞭に二つの機能——一つには母親の勞役從事の間子供の世話を見る、二つには讀・書・算等の基本的知識技能を與へることの二つの機能を示してゐる。

第四に斯くして生れて來た幼兒學校が重きを置いたのは身體の訓練、愛情の増進、道徳的、社會的良習慣の養成といふ三點であつた。之はオーエンの著書及び實踐、ブッチャナンやストー等の實際活動、ブルーガム等識者の力に負ふ所が少

くない。

第五に幼兒學校は子供に知識を與へると共に愉快な明るい場所でなくてはならない。

以上に挙げたやうな當時の幼兒學校の特徴を示すものとしてマークーの「中央教育協會報」C. Baker, The Third Publication of the Central Society of Education (1889) 中から三の引用をなして見よう。

「幼兒學校のものは、一歳から六歳までの幼兒を收容し、親の手から之を預つて彼等のために兩親ともなり友達ともなり父教師ともならんとするもので、家庭と學校とを、に結合し、信賴に足りる温かい母の親切と愛情を賢明なる教師の才能にて補つたものである。それは調和的發育に資せんとする適切にして複雑な仕方で身體の力と健康とを増進し、聖書の教する道徳的社會的良習慣を馴致することに重きを置き、言葉よりも實行・實物・範示によつて成功を期せんとする。過度の喧嘩・興奮は避けねばならないが、常に嬉ばしい明るさが幼兒學校の空氣でなくてはならない。……」。

右の一般的敍述に續いてマークーは幼兒學校の身體的訓練をいふ點に就いて特に次のやうに述べてゐる。「それで幼兒學校の特殊の目的は子供の身體的幸福をもたらすにあらねばならない。子供の健康の維持増進のためには食物・衣服・運動・清潔・衛生等一切のことをがらが注意と監督の對象にならねばならない。良好な幼兒學校に於て行はれてゐる方法は第一に換氣された空氣の通しのよい廣い部屋、第二に遊戲・作業を通して行はれる筋肉運動、第三に室内及び戶外に於ける軽い體操・競技第四に勤勉な勞務の習慣づけるための適當な作業である。更にマークーは道徳的訓練の重要さに就いては「我々は決して德育が一義的なものだと言ふのではない、たゞ社會的性格にしたる道徳的教養にしろ又は知的才能にしろ、それ等は健全なる身體の基礎があつて始めて可能なのである」と述べ、更に知育に關しても「慎重な用意の下に身體の發育に害にならない程度に於いて重要な知識は與へられねばならないが、是等の知識は子供の理解の範圍内に於いて、子供が欲する時、欲

するやうな方法で與べられねばならぬ」といふのは注意すべき事である。

(8) 十八六十年に至る迄の各種設備の發達

かくしてイギリスに於いて幼兒保育の重要さは次第に認められて來た。一七八四〇年に新設の「教育委員會」Committee of Council on Education から第一回の覽書きが發せられたが、これを見ても幼兒學校なるもの、性質特にそれが初等教育との區別に於ける意義がはつきりと認められたことがわかる。委員長のフライ・ブッシュ・ケーは各小學校には幼兒科を設け、出來得れば獨立の幼兒學校が建設されるべきことを明記してゐる。而して委員會がその必要を認めた主なる理由は産業革命の進展につれて少年の勞働があります／＼盛んなり、この風潮は都市のみならず地方田園にも普及して行つたことにある。一八六〇年に有名な「ニューキャッスル委員會」の報告なるものが出来されたが、それまでの十九世紀前半に於ける産業行政のものは、その大部分がこの少年勞働の禁止抑壓に關するものであつた。一八三三年一六七年にいたる數度の「莫爾工場法」は一八六〇年の「礦山法」の如き皆それである。けれども、西英國の言へば、十八五八年の「教育委員會覽書」がび、一八六〇年の「ニューキャッスル委員會報告書」にいたるまでの四十年間の不景氣は教育界は、近代教育史上でも有数の生氣溢れた試験時期であつて、これが、ヨーロッパ大陸の始めたモダニズム學校の勃興以來の久遠の影響による幼兒學校の組織は相對立して大いな變容發達を見たのであつた。かくして各地にこの流れを汲む幼兒學校が新設された。又「教育委員會」では特に幼兒學校の教師保母の養成に力を注ぎ、格大學の師範科はその爲めに特殊の設備をしない限り補助金を交付されない規定になつた。保母の特定の資格が問題となり規定されたものがあるものであつた。

(9) ニューキャッスル委員會

「ニューキャッスル委員會」といふのはニューキャッスル伯を委員長として、一八五八年に任命された官命の教育研究委員

會であつて、その任務は「イングランドに於ける公教育の現情を調査し、健全にして手近かな一般教育促進法を報告」するにあつた。

一八六一年に公表されたこの委員會の報告は、學校を次のやうに分類してゐる。即ち（1）幼兒學校と小學校、（2）晝間學校と夜學校、（3）週日學校と日曜學校。而して幼兒學校といふのは七歳までの子供を收容するもので、その始期は出来るだけ早く、幼兒が獨立して步行し言語を操り得る時から始まる。ただで一定の年齢の制限はない。それは仕事をもつ母親に代つて幼兒を保護し養育する社會的保育機關である。

幼兒學校とは私立のと自學校と公立の幼兒學校がある。後者は時として公立の小學校の一部として之に併置される。一八六一年の當時にあつては自學校はかなりに多く都市及び地方に大きな勢力を張つてゐた。中には規模の極めて小さいものがあり、私立の託児所と言つた趣のものもあつた。遠隔の土地では大いに便利な推賞すべき設備であつたが、多くは不潔でその設備も勿論不完全なことは免れ得なかつた。

公立の幼兒學校にはいろいろの型のものがあつたが、「委員會」はその優秀なものは國民教育上大いに意義あることを認めてゐる。而して公立幼兒學校が成績を收める。否とは主としてその教師たる者の能力・忍耐・愛情等に依るをもつて、幼兒學校教師養成のための機關の増設を大いに要求してゐる。「その機關は特殊な要求に応じる特殊の設備と特殊の教育を必要とする。」

この一八六一年の報告に基いて「教育委員會」副會長ロバート・ローは外學校六ヶ年七十二歳までの學年制度を確立し各學年毎に一定の試験標準を定めた條令 Code を發した。この條件は右の如く小學校に關するもので直接幼兒學校の保育には無關係のやうに思へるが、仔細に考へれば第一學年の入學資格試験に對する準備を必要とする點に於いて、幼兒學

校に於ける保育、否な少くもその教育の限界又は目標を示した點に於いて、幼兒學校への指針となつたものである。

かく一八七〇年頃まではイギリスでは幼兒保育に關する公定の法令は發せられてゐないが、その保育の實情は上に述べた如く、かなりイギリスの各地方にまで浸潤し、體育・德育を主とし、知育は第二次的のものとするとの一般的傾向だけは確立し、幼兒保育の重要性とその特殊意義とは十分に認められたこと見ることが出来る。

賀 正 日 本 幼 稚 園 協 會

昭和十二年一月